大学教育学会ニュースレター

No.108　　2018.4.18

一般社団法人大学教育学会　（*Japan Association for College and University Education*）
事務局：　〒252-0231　神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204
TEL/FAX：（042）707-8112
郵便振替口座：00210-9-102857　一般社団法人大学教育学会
E-mail:jacue.office@gmail.com　　URL: http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

大学教育学会第40回大会を開催するにあたって

大学教育学会第 40 回大会（2018 年）
大会実行委員長　清水　諭　（筑波大学理事・副学長）

2018 年 6 月 9 ～10 日、大学教育学会第 40 回大会という節目にあたる大会を筑波大学において開催させていただくことになりました。

本大会の統一テーマは、「AI 時代を生きるための教養教育」です。AI は現在、学生たちが直面する社会環境の変化の筆頭要因に挙げられます。社会において、AI が浸透するスピードは加速化し、AI と共存した生活を深く考えなければならない状況となりました。こうした新たな社会環境において、私たちはどのように AI と向き合い、生きていくべきなのか。こうした問題に対して、大学教育、そして教養教育はどのように考える道筋を設定することができるのか。社会環境の急激な変化に対して、大学教育は新たな可能性を拓いていくことができるのか。今こそ考えなければならない時だと思います。

筑波大学は、開学以来、あらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、固定概念にとらわれない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現することを基本理念としてきました。本大学において、AI 時代を生きるための教養教育についてともに考え、議論する場にしたいと考えます。

基調講演では、永田恭介筑波大学学長が「柔軟な教育研究組織とわが国の高等教育の未来」と題する講演を行います。永田学長は、現在、国立大学協会副会長、中央教育審議会大学分科会会長、そして大学基準協会会長であり、新たな大学のあり方について、教育や研究の側面のみならず様々な提案をしています。

基調講演の直前に行われるシンポジウム「AI 時代を生きるための教養教育に必要なこと」では、3 名のシンポジストが報告をします。鈴木健嗣（筑波大学）は、AI 開発の目指す方向性と開発者の想定する AI と人間の共存イメージ、そして AI が人間をはるかに超えて処理できるビッグデータの活用が生活に与える影響について話します。続いて、清水諭は、身体文化の歴史と社会的背景を踏まえて、人間の身体知と AI との関係について話をします。さらに、小笠原正明氏（北海道大学名誉教授）から、AI 時代における教養教育の重要性について、話していただきます。コーディネーターは、佐々木一也氏（立教大学）にお願いし、各報告に対するコメントのほか、フロアの皆さんと議論を深めるための提案がなされます。

本大会では、ラウンドテーブルに 14 件、自由研究発表に 106 件と、多くの発表申し込みをいただいています。ぜひ、大会にご参加いただき、活発な質疑と討論を通じて新たな智の創造に関わっていただきたく思います。基調講演・シンポジウム会場は大学会館講堂、ラウンドテーブル・自由研究発表は 5C 棟（体芸棟）で行います。雨季の折、皆様にはご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、できるだけ快適にお過ごしいただけるよう大会を運営する所存です。

筑波研究学園都市の緑あふれる筑波大学キャンパスにおいて、多くの皆様とお会いできることを楽しみにしています。

大学教育学会第 40 回大会（2018 年）

統一テーマ

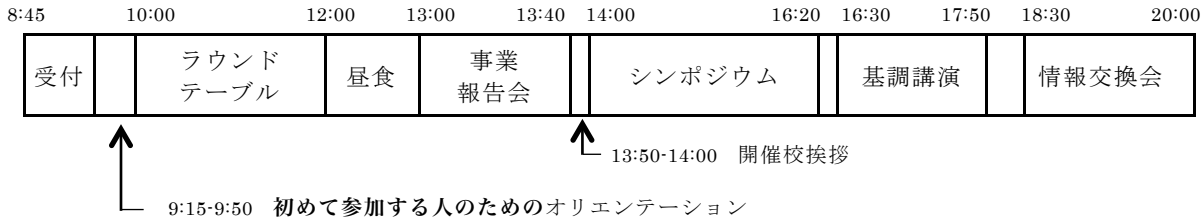
「AI 時代を生きるための教養教育」

1. 開催期日および会場

期日　2018（平成30）年6月9日［土］、6月10日［日］
会場　筑波大学（つくば市天王台1-1-1：つくばエクスプレス（TX）つくば駅下車、バス10分）
　　ホテルグランド東雲（つくば市小野崎488-1、TXつくば駅、徒歩8分）

・5C棟（体芸棟）：大会受付、オリエンテーション、ラウンドテーブル、ミニシンポジウム、自由研究発表、ポストワークショップ、（6/8金）理事会・定時代議員総会
・大学会館講堂　：事業報告会、基調講演、シンポジウム
・ホテルグランド東雲（２階インペリアル）：情報交換会

第 1 日：6月9日［土］　午前は5C棟（体芸棟），午後は大学会館講堂



8:45	受付開始（5C 棟［体芸棟］2F 中央ホールより東側入る）
9:15 - 9:50	初めて参加する人のためのオリエンテーション
10:00 - 12:00	ラウンドテーブル
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 13:40	事業報告会（以降、シンポジウムまで大学会館講堂）
13:40 - 13:50	（休憩）
13:50 - 14:00	開催校挨拶　高木英樹（大会実行委員会事務局長、筑波大学）
14:00 - 16:20	シンポジウム「AI 時代を生きるための教養教育に必要なこと」 清水諭（筑波大学）、鈴木健嗣（筑波大学）、小笠原正明（北海道大学名誉教授）
16:20 - 16:30	（休憩）
16:30 - 17:50	基調講演　永田恭介（筑波大学学長） 「柔軟な教育・研究組織とわが国の高等教育の未来」
17:50 - 18:00	（移動）
18:30 - 20:00	情報交換会（ホテルグランド東雲 2 階、つくば駅徒歩 8 分）

* 6 月 9 日（土）若手研究者交流会について
　情報交換会終了後に、毎年好評の若手研究者交流会を予定しております。学生・大学院生、入職後約 5 年以内の教職員の皆さんなど、同じ立場の仲間と研究、教育、実践、キャリアに関する情報交換をしましょう。是非新たなネットワークを構築しましょう。非会員の方も参加できます。
日時：2018 年 6 月 9 日（土）20 時 00 分～21 時 30 分
場所：「和民」つくば駅前店　定員：先着 50 名　予算：3,000 円（フリードリンクつき）
申込：以下の大会の参加登録画面（大会 HP からリンク）からお申し込みください。
https://amarys-jtb.jp/daigakukyoiku/　　申込締切：5 月 11 日（金）

※ 申込み後に都合によりキャンセルされる場合は、6 月 6 日(水)までに必ず yngmbs@googlegroups.com までご連絡ください。それを過ぎますとキャンセル料が発生する場合がございます。ご了承ください。

第 2 日：6月10日［日］ 5C棟（体芸棟）

9:00	9:30 12:00		13:00 15:00		15:30 17:00
受付	自由研究発表Ⅰ ミニシンポジウム	昼食	自由研究発表Ⅱ		※ ポストワークショップ

9:00	受付開始
9:30 - 12:00	自由研究発表Ⅰ
	ミニシンポジウム「AI 時代における大学体育スポーツの貢献」
	松元 剛（筑波大学）「AI 時代へ向けた大学スポーツ組織の整備」
	金谷麻理子（筑波大学）「大学院生を対象とした体育授業の実践」
	七五三木 聡（大阪大学）「大学体育における健康教育」
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 15:00	自由研究発表Ⅱ
15:00 - 15:30	休憩
15:30 - 17:00	※2 ポストワークショップ（事前申込みした会員のみ）

※ 6 月 10 日（日）ポストワークショップについて

本学会活動の大学教育改革への貢献の可視化と会員の能力開発を促すため、ポストワークショップ（各定員 50 名、有料）を実施いたします。今大会では A「学生の学習を促すシラバスの書き方と授業設計」と B「剽窃を防ぎ、学生を思考にいざなうレポート課題の出し方」の 2 種類を実施します（同時刻開催）。参加をご希望される方は大会参加申込と合わせてお申し込みください。

○ポストワークショップ A「学生の学習を促すシラバスの書き方と授業設計」

講師：中島英博会員（名古屋大学）・榊原暢久会員（芝浦工業大学）会場：5C316

大学で授業を行う場面を考える際、講義や作問など教員が行う活動に目を奪われがちです。しかし、学生の学習成果が注目される中、教員の重要な役割は、授業を通して学生に学習を促すことです。シラバスは、授業時間外の学習を含む学生の学習活動を支援する最も基本的なツールです。ここでのシラバスは、大学のウェブサイト等で公開され、単に授業の計画を予告するものではなく、学生の学習を促すガイドとして活用するものを指します。このワークショップでは、実際のシラバスを参考にしながら、1 学期間の授業設計の基本を身につけます。大学教員採用者の前職が多様になる中、大学での授業経験が少ない教員を歓迎します。

本ワークショップ参加者には、テキストとして、中島英博編（2016）『授業設計（シリーズ大学の教授法第 1 巻）』（玉川大学出版部）（JACUE セレクション 2017 選定図書）が配付されます。

○ポストワークショップ B「剽窃を防ぎ、学生を思考にいざなうレポート課題の出し方」

講師：成瀬尚志会員（長崎大学）会場：5C317

インターネットが普及した現在、学生はあらゆる情報に容易にアクセスできるようになりました。それにともない、そうして得た情報を用いた、レポート課題での「剽窃」や「コピペレポート」は教員を悩ませる大きな問題となっています。これは、倫理的な問題であると同時に、本来試行錯誤しながら書くことで様々な能力が養われるはずのレポート課題に学生が頭を使わずに取り組んでいることから、学習機会の損失でもあると言えます。では、この問題にどのように取り組めばよいのでしょうか。本ワークショップでは、この問題に「レポート論題（「～について説明せよ」などの教員からの指示文）」という観点から考えます。当日は、インターネットなどの活用を前提とした上で、レポート課題で学生にどのような思考を求めることができるのか、また、それに応じたレポート論題をどのように設定できるのかについてワークを通して考えていきます。

本ワークショップ参加者には、テキストとして、成瀬尚志編（2016）『学生を思考にいざなうレポート課題』（ひつじ書房）が配付されます。

関連行事：6月8日［金］

14:00 - 18:00 理事会 5C316、定時代議員総会 5C317

進行の詳細

6月9日（土）

8：45～　　受付

9：15～9：50　初めて参加する人のためのオリエンテーション

会 場：5C216（受付エリア横の階段教室）　**担当**：大学教育学会常務理事　濱名 篤（関西国際大学）

10：00～12：00　ラウンドテーブル　　会場：5C棟（体芸棟）

テーブル１　一般教育の知的遺産を活かす（その 10）

会　場：5C406

企画者：深野政之（大阪府立大学）、志津木敬（広島大学）、山本伸也（関西学院大学）、杉本孝作（四国学院大学）、小山悦司（倉敷芸術科学大学）、徳永哲也（長野大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）

趣　旨：「専攻拡充」「豊かな専攻」が示すように、ボイヤー提唱のenriched major は、1980年代後半以降、大学教育改革に影響を与えています。「仕事の世界に意味をもたらすことを通じた人生の拡大」は、社会的インフラとしての一般教育を示唆します。(その10)では、enriched majorを取り上げます。平成時代という観点も出てきました。多くの先生方のご参加をお待ち申し上げています。

テーブル２　学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ｘ －「主体的・対話的で『深い』学び」を深めるために－

会　場：5C507

企画者：米田敬子（文教大学）、髙橋真義（東日本国際大学）、中村拓昭（九州産業大学）、十河功一（九州女子大学）、菊地勇次（千葉大学）、郷原正好（広島大学）、杉原亨（関東学院大学）、橋本勝（富山大学）

趣　旨：昨年度は、「主体的・対話的で深い学び」の見える化について、参加者と多面的多層的に議論し、整理した。本年度は「主体的・対話的で『深い』学び」を深めるために、各大学の実践事例等を共有し、参加者とアクティブな見交換をおこない、学生の目を輝かせる大学教育について探ることとする。

テーブル３　ラーニングコモンズやライティング支援におけるラーニングアナリティクスの可能性―学習環境と学習支援の方向性を考える―

会　場：5C416

企画者：岩崎千晶（関西大学）、村上正行（京都外国語大学）、川面きよ（東北大学）、遠海友紀（東北学院大学）、嶋田みのり（東北学院大学）

趣　旨：大学は自律的な学習者を育むためにラーニングコモンズ（ＬＣ）やライティング支援などの学習支援を提供している。現在、これらの学習環境や学習支援をどう評価し、改善すべきかという関心が大学間で高まっている。本ラウンドテーブルでは、ラーニングアナリティクス（ＬＡ）の概要と具体的な活用方法に触れたのち、日本の高等教育におけるＬＣの設置や動向に関する調査方法、結果について述べる。その後、ＬＣにおける学習者の利用・学習状況の調査分析、ライティング支援における利用動向の調査分析に関する事例報告を行う。これらの発表を通して、ＬＣやライティング支援におけるＬＡの可能性について検討するラウンドテーブルとなっている。

テーブル４　現代のリベラルアーツとしての理数工系科目（STEM）の開発と教育実践のために

会　場：5C508

企画者：細川敏幸（北海道大学）、吉永契一郎（金沢大学）、斉藤準（帯広畜産大学）

趣　旨：まず、世界の動向を探るために吉永契一郎先生にAAAS（アメリカ科学振興協会）2018 の大会報告を、斉藤準先生にアジアの大学のSTEM教育について報告していただく。また、筑波大学礒田正美先生から数学教育、教員養成、APEC-ASEAN動向からのSTEM 教育について、同志社大学生命医科学部野口範子先生からは文理融合プログラムとしてのサイエンス・コミュニケータープログラムについて報告していただく。本テーマは課題研究なので、後者２名は学会員以外から話題提供をお願いした。

テーブル５　大規模学生調査を通じて大学教育の将来像を考える―学習・環境・社会的側面・発達的観点から―

会　場：5C506

企画者：松本留奈（ベネッセ教育総合研究所）、山田剛史（京都大学）

趣　旨：ベネッセ教育総合研究所は、2016 年「第３回大学生の学習・生活実態調査」を実施した。本調査は2008年以来４年おきに実施しており、第１～３回の結果から８年間の大学生の学習・生活の実態、行動や意識の変化をとらえることができる。本ラウンド・テーブルでは、大学を取り巻く状況・環境が大きく変化する中での学生の変化をとらえるとともに、この調査データからみえてきた現在の大学生を、学習環境、社会的側面、発達的観点など、さまざまなアプローチから分析した結果を題材に、大学教育の将来像について参加者とともに論じたい。

テーブル６　日本における大学教職員職能開発プログラムの新展開―新たなステージへの挑戦―

会　場：5C317

企画者：石倉佑季子（大阪大学）、竹内比呂也（千葉大学）

趣　旨：大学教職員に求められる職能や専門性が多様化しており、教職員の資質・能力の向上と、教職員として多様な人材を育成することが求められている。そのような中、近年多くの大学では、大学教職員職能開発プログラムが立ち上げられ展開されている。本セッションでは、大学教職員職能開発プログラムを実施している国立３大学が、まず各大学の取り組みを共有し、現状と課題を明確にする。また、教職員のあり方が多様化し問われている中、現在教職員に求められている職能や専門性、職員と教員の中間的職である専門職のあり方、教職協働という課題を共に模索する。

テーブル７　運動部学生の学修支援

会　場：5C412

企画者：北徹朗（武蔵野美術大学）、小林勝法（文教大学）、幸野邦男（武庫川女子大学）、西垣景太（中部大学）

趣　旨：全国大学体育連合の調査によると約３割の大学がスポーツ推薦入試を行っている。入学時の学力問題に加え、公式戦や合宿のため授業に出席できないなど、運動部学生の学修支援の必要性は高い。実際には、入学前教育や運動部学生向けのクラス編成・授業開設などが行われているが、その実施率は高いとは言えず、大学によってまちまちである。国は大学スポーツの持つ潜在力を生かすために、日本版NCAAの創設に取り組んでいるが、それに向けた学産官連携協議会では運動部学生の学修支援の具体的な内容について検討している。本ラウンドテーブルでは、その検討結果と事例報告をもとに期待される成果や実施上の問題点について検討したい。

テーブル８　吉野源三郎『君たちはどう生きるか』を読む ～教養教育とリメディアル教育をつなぐ～

会　場：5C413

企画者：児玉英明（京都三大学教養教育・推進機構）、阿部勘一（京都三大学教養教育研究・推進機構）、居神浩（神戸国際大学）、鷲北貴史（東京経済大学・湘南工科大学）

趣　旨：吉野源三郎『君たちはどう生きるか』は1937年に出版されて以来、教養教育の古典として読み継がれている。2017年には漫画版も出版され、再評価されている。古典とは、読み手の精神的成長に合わせて、向き合うことができる書物である。学生時分に読んだ古典を社会人になってから読み返してみて、新たな発見をすることもあるし、変わることのない信条を再確認することもある。漫画版の出版は、多様な学力層に対応可能な「教養教育の本質を踏まえたディスカッション教材」としての活用が期待できる。本ラウンドテーブルでは、教養教育とリメディアル教育をつなぐ実践例を示し、リメディアル教育を「市民的教養の修得支援」という視点から再定義する。

テーブル９　保健医療福祉系大学における教養教育の問題（9）- 国際化とDisciplineの越境

会　場：5C301

企画者：小野滋男（北海道医療大学）、清水幸（北海道医療大学）、寺﨑昌男（東京大学）、町田修三（高崎健康福祉大学）遠藤良仁（岩手県立大学）、森元拓（山梨大学）、小関久恵（東北公益文科大学）、宮本雅央（群馬医療福祉大学）、山下匡将（名古屋学院大学）、早川明（龍谷大学短期大学部）

趣　旨：これまで、我々は当該課題について本質論的テーマや現実的テーマを設定し、過去８回にわたり議論を深めてきた。現在の保健医療福祉分野の状況に鑑みれば、“国際化”は喫緊の課題である。諸外国の人々との協働や支援においては、異文化理解と多様性への承認が不可欠となる。そのような実践上の課題に対応するためには、その基盤として専門学(discipline)の越境が想起される。その視点から、教養教育のあり方について検討したい。

テーブル 10　学習支援を学修成果に結びつけるための設計と運営

会　場：5C316

企画者：加藤善子（信州大学）、井下千以子（桜美林大学）、谷川裕稔（四国大学）、野田文香（大学改革支援・学位授与機構）

趣　旨：本ラウンドテーブルは、これまでに積み重ねられてきた学習支援の様々な試みにについてその成果を確認するとともに、学士課程教育の中に位置づけ、学修成果との関連において学習支援の今後の方向性を検討するものである。何をどうすれば学生が大学での学修についていくことが出来るかの研究が進んだ今、学習支援を必要とする学生が、間違いなくその支援を受けるにはどうすればよいのかという課題に取り組む段階にきた。初年次セミナー、ライティング教育、種々の支援プログラムの実践から、「使われる支援」「成果に結びつく支援」のありかたを提案する。認証評価、効果測定、大学内の資源の有効利用との関連も視野に入れ、議論を提起したい。

テーブル 11　アカデミック・アドバイジングー実践者に対する能力開発の観点から

会　場：5C307

企画者：清水栄子（愛媛大学）、山崎めぐみ（創価大学）、岸岡奈津子（立命館大学）、秦敬治（岡山理科大学）

趣　旨：アカデミック・アドバイジングは100年以上前から米国で実施されている学生の大学生活を成功に導くための履修に関わる支援である。わが国においても近年、学生支援の一環として取り組まれている。昨年は、アドバイジングの実践者を中心に議論を行った。その過程において、それぞれの大学の文脈に沿った導入、運営が行われており、その方法や形態が多様であることが明らかにされた。本ラウンドテーブルでは、さらに進めて実践者に求められる能力と研修制度の観点からアカデミック・アドバイジングの実態と課題を明らかにする。

テーブル 12　アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果

会　場：5C308

企画者：杉森公一（金沢大学）、河内真美（金沢大学）、山本啓一（北陸大学）

趣　旨：正課のアクティブラーニング型授業におけるTA（大学院生）・SA（学部 生以上）の役割を「学生アドバイザー」と置き、学部生を含めたピアの学修支援を実現する、制度・研修・活動・効果を実証的に研究する。学生アドバイザーは、個別の大学が個別に取組んでいるため、その活動内容・質・広がりも様々であるが、制度として組織的に位置づけれら

れるならば、その養成を個々の教員・取組みにとどめることなく、授業の受講学生の教育・学修の質の向上をともに図ることを可能とすることが期待される。本ラウンドテーブルでは、国内実践事例・制度の報告をもとに、制度／研修・養成／効果の枠組みを整理し、点から線へつなげる議論の機会としたい。

テーブル 13　アセスメントポリシーの構築と IR の活用

会　場：5C407

企画者：藤木清（関西国際大学）、濱名篤（関西国際大学）、福島真司（大正大学）、林透（山口大学）、安達哲夫（富山短期大学）、富岡和久（北陸学院大学）

趣　旨：３つのポリシーの公表に伴い、「学修成果の可視化」が求められ、その前提としての「アセスメントポリシー」の構築の重要性が高まっている(中教審将来構想部会・論点整理2017.12)。また、多くの大学では学修成果の可視化のためのIRデータの利用や機能の充実が進められている。その結果、様々な事例が報告されてきているが、内部質保証に有効な評価・改善システムが完成しているわけではない。本ラウンドテーブルでは、事例報告を参照しつつ、学修成果の可視化の方法（直接評価と間接評価）および、評価の位相（大学レベル、学位レベル、授業レベル等）の観点から、アセスメントポリシー構築の課題や方策について議論したい。

テーブル14　日本型IR の過去・現在・未来～2008 年「学士課程教育の構築に向けて」から現在までの10 年を振り返って～

会　場：5C513

企画者：上畠洋佑（金沢大学）、姉川恭子（早稲田大学）

趣　旨：我が国では2008年の「学士課程教育の構築に向けて」においてIRの重要性が述べられ、政策としてその導入・普及が促されてきた。本ラウンドテーブルでは、2008年から現在までの日本型IRに関連する活動や成果物等を整理し、今後の高等教育における大学のIRの展望を描くことを目的として実施する。具体的には、高等教育の各学会等におけるIR活動・議論等、IRに関する論文・調査報告書・書籍等の整理を行い、IRに関する論点の変化を中心に報告を行う。また、近年調査数が増大化する大学調査の現状把握を踏まえた日本版コモンデータセットの可能性について報告を行う。最後に報告の全体整理を行い、日本型IR の未来についての展望を明らかにすることを試みる。

12：00～13：00　**昼食（5C216, 5C213, 5C217, および会場教室）**

13：00～13：40　**事業報告会　　会場：大学会館講堂**

13：40～13：50　**休憩**

13：50～14：00　**開催校挨拶**（高木英樹：本大会実行委員会事務局長、筑波大学体育系）

14：00～16：20　**シンポジウム　　会場：大学会館講堂**

テーマ：AI 時代を生きるための教養教育に必要なこと

観　点：①現状において AI 開発が目指している方向性と、開発者が想定している AI と人間との共存のイメージ。②AI が人間をはるかに超えて処理できるデータ、特にビッグデータの活用が生活に与える影響。③人間の身体知が AI との共存において果たすことが期待される役割。④AI 時代に際立つ教養教育の重要性。

シンポジスト

①②の観点から：鈴木健嗣（筑波大学教授、システム情報系｜サイバニクス研究センター｜人工知能科学センター）

③の観点から　：清水　諭（筑波大学副学長教育担当、体育系）
④の観点から　：小笠原正明（北海道大学名誉教授）
コーディネーター　：佐々木一也（立教大学教授、本大会企画委員）

16：20〜16：30　**休憩**

16：30〜17：50　**基調講演**　　**会場：大学会館講堂**

演　題：柔軟な教育研究組織とわが国の高等教育の未来（仮題）
講　師：永田恭介（筑波大学学長、医学医療系）
司　会：小笠原正明（北海道大学名誉教授、本大会企画委員）

17：50〜18：10　**移動**

18：10〜19：40　**情報交換会**　　**会場：ホテルグランド東雲2階（つくば駅徒歩8分）**

※大学から会場までシャトルバスを運行します。

6月10日（日）　**会場：5C棟（体芸棟）**

9：00〜　　**受付**

【9：30〜12：00　自由研究発表Ⅰ、ミニシンポジウム　を並行開催】

9：30〜12：00　**ミニシンポジウム「AI時代における大学体育スポーツの貢献」**

会 場　：5C216（大講義室 1）
演 者　：松元　　剛　（筑波大学体育系）：AI 時代へ向けた大学スポーツ組織の整備
演 者　：金谷 麻理子（筑波大学体育系）：大学院生を対象とした体育授業の実践
演 者　：七五三木 聡（大阪大学医学研究科）：大学体育における健康教育
司 会　：加藤　　毅　（筑波大学ビジネスサイエンス系）

9：30〜12：00　**自由研究発表Ⅰ**　　（○は登壇者）

部会１　教育方法・授業改善(1)
会　場：5C308
司　会：夏目達也（名古屋大学）、細川敏幸（北海道大学）

9:30〜 9:50　コンピテンス概念の整理と価値・自律性・知識の再構成
○水町龍一（湘南工科大学）

9:50〜10:10　反転授業のおける深い学びの構成についての検討
○金西計英（徳島大学）、高橋暁子（徳島大学、非会員）

10:10〜10:30　声楽教育における学びのプロセス再考：ICE モデルを使った逆向き設計
○中西千春（国立音楽大学）、本島阿佐子（国立音楽大学、非会員）

10:30〜10:40　休憩

10:40〜11:00　ゼミナール実践における教員の暗黙知に関する探索的研究
○伏木田稚子（首都大学東京）

11:00〜11:20　教員の意図と学生の主体性はどのように両立するか―医療系学部のゼミでの意見対立場面の分析―
○元濱奈穂子（東京大学大学院）

11:20〜11:40　大学教員のアイデンティティに関する探求：写真投影法を用いた探索的検討
○佐藤万知（広島大学）、○杉原真晃（聖心女子大学）、○立石慎治（国立教育政策研究所）、丸山和昭（名古屋大学、非会員）

11:40～12:00　総合討論

部会２　教育方法・授業改善（2）
会　場：5C307
司　会：松下佳代（京都大学）、中島英博（名古屋大学）

9:30～ 9:50　アクティブ・ラーニングのローカライズに向けた「社会人基礎力」 尺度作成の試み
○佐瀬竜一（常葉大学）、増井実子（常葉大学、非会員）、谷誠司（常葉大学、非会員）、安武伸朗（常葉大学、非会員）、戸田裕司（常葉大学、非会員）、柘植健一（常葉大学、非会員）

9:50～10:10　アクティブ･ラーニング型授業における学生アドバイザーの効果―受講生アンケート調査から―
○河内真美（金沢大学）、杉森公一（金沢大学）

10:10～10:30　共通教育科目とアクティブ・ラーニング：理論と実践から見えてくる課題の省察
○清水亮（神戸学院大学）

10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　アクティブラーニング形式の授業経験は深いアプローチの変容に影響を与えるのか―深いアプローチの下位概念に注目した縦断的検討―
○斎藤有吾（京都大学）

11:00～11:20　授業外学修を促進するアクティブラーニング型授業のデザイン:山口大学におけるアクション・リサーチをもとに
○長澤多代（三重大学）、林透（山口大学）、日高友江（山口大学、非会員）

11:20～11:40　高等教育における歴史分野科目のアクティブラーニング型授業デザインとルーブリック開発の検討
○千葉美保子（関西大学）、岩崎千晶（関西大学）

11:40～12:00　総合討論

部会３　教育方法・授業改善（3）
会　場：5C302
司　会：小山悦司（倉敷芸術科学大学）、志津木敬（広島大学）

9:30～ 9:50　リベラルアーツ科目としての情報リテラシーの改善と評価
○小棹理子（湘北短期大学）、内海太祐（湘北短期大学、非会員）、高嶋章雄（湘北短期大学､非会員）

9:50～10:10　教養教育におけるメディア・リテラシーの育成
○後藤康志（新潟大学）

10:10～10:30　情報リテラシーにおける能力別クラスわけによる学習効果
○中田美喜子（広島女学院大学）

10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　情報科目におけるマインドマップの活用：学習用具としての有用性に関する考察
○佐藤尊範（東海学院大学）

11:00～11:20　大学生のメディア情報リテラシーの直接評価に関する研究―メディア情報リテラシーの意義とパフォーマンス評価の開発―
○飯尾健（京都大学大学院）、溝口侑（京都大学大学院）、香西佳美（京都大学大学院、非会員）、大森俊典（京都大学大学院、非会員）、渡邊智也（京都大学、非会員）、平山朋子（藍野大学）、小山理子（京都光華女子大学）、松下佳代（京都大学）

11:20～11:40　大学生のメディア情報リテラシーの直接評価に関する研究―パフォーマンス課題の実施を通じた課題およびルーブリックの妥当性の検討―
○溝口侑（京都大学大学院）、飯尾健（京都大学大学院）、香西佳美（京都大学大学院、非会員）、大森俊典（京都大学大学院、非会員）、渡邊智也（京都大学、非会員）、平山朋子（藍野大学）、小山理子（京都光華女子大学）、松下佳代（京都大学）

11:40～12:00　総合討論

部会４　教育方法・授業改善(4)
会　場：5C301
司　会：池田輝政（追手門学院大学）、溝上慎一（京都大学）
9:30～ 9:50　学修ポートフォリオの導入と課題
○三宅元子（名古屋女子大学）、白井靖敏（名古屋女子大学、非会員）
9:50～10:10　学生自身による学修成果の可視化－履修科目の振り返りを通して
○上畠洋佑（金沢大学）
10:10～10:30　納得感とは何か―主体的学びを後押しする心理学的概念を探る（2）
○橋本優花里（長崎県立大学）、橋本健夫（長崎国際大学）、川越明日香（熊本大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　教員の問題意識を起点とした教育開発の推進
○西野毅朗（京都橘大学）
11:00～11:20　産学連携教育に関する考察―慶應義塾大学の情報教育の取組を手掛かりに―
○李麗花（九州大学）
11:20～11:40　国立大学法人第3期中期目標・中期計画における教育手法から高等教育政策を考察する－アクティブラーニング、PBL、キャリア、インターンシップに着目して－
○佐藤龍子（龍谷大学）
11:40～12:00　総合討論

部会５　学士課程教育・カリキュラム(1)
会　場：5C317
司　会：小田隆治（山形大学）、村上正行（京都外国語大学）
9:30～ 9:50　大学生の主体的な学び：地方大学工学部の事例
○藤墳智一（宮崎大学）
9:50～10:10　地域人材育成カリキュラムと学修成果に関する一考察　～やまぐち未来創生人材（YFL）育成プログラムの実践を通して～
○林透（山口大学）
10:10～10:30　人口減少期の地方大学の可能性～直接学生を中心に～
○塚原修一（関西国際大学）、濱名篤（関西国際大学）、山田礼子（同志社大学）、深澤晶久（実践女子大学）、合田隆史（尚絅学院大学、非会員）、白川優治（千葉大学）、杉谷祐美子（青山学院大学）、松原茂仁（関西国際大学、非会員）、小林功英（日本私立大学協会、非会員）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　学生プロジェクト活動を正課外で実施する学生教育上のメリットの検討
○長谷川誠（千歳科学技術大学）
11:00～11:20　対面型授業外学習相談の実績と傾向－同志社大学良心館ラーニング・コモンズの取り組み事例から－
○浜島幸司（同志社大学）、中村伸也（同志社大学、非会員）、野田宣彦（同志社大学、非会員）、三宅重彰（同志社大学、非会員）、大島佳代子（同志社大学、非会員）

11:20～11:40　高等教育の専門分野の違いによる進路の差異についての一考察
○似内寛（東北福祉大学）
11:40～12:00　総合討論

部会６　学士課程教育・カリキュラム(2)
会　場：5C316
司　会：圓月勝博（同志社大学）、飯吉弘子（大阪市立大学）

9:30～ 9:50　中国の大学における教養教育の政策とカリキュラム改革
○楊ドウ（東京大学）
9:50～10:10　「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン」(ESG2015)に関する批判的考察－「学生中心の学習」を基幹とする質保証の有効性について－
○山田勉（京都大学）
10:10～10:30　私立大学教育国際化の新展開：私学高等教育研究所プロジェクトより
○米澤彰純（東北大学）、高橋宏（東京国際大学、非会員）、山崎慎一（桜美林大学）、嶋内佐絵（早稲田大学、非会員）、坂下景子（私立大学協会、非会員）濱名篤（関西国際大学）

10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　人口減少時代を生きるための教養教育－AI より人口減少が前提ではないか－
○黒田光太郎（名古屋大学）
11:00～11:20　現代英国の高等教育論におけるニューマン
○間篠剛留（大阪成蹊大学）
11:20～11:40　西周における軍学共同
○加藤恒男
11:40～12:00　総合討論

部会７　学生支援(1)
会　場：5C416
司　会：筒井洋一（京都工芸繊維大学）、森朋子（関西大学）
9:30～ 9:50　地域活動を介した学びのコミュニティの 10 年目検証
○櫻井典子（新潟大学）、箕口秀夫（新潟大学、非会員）、松井賢二（新潟大学）
9:50～10:10　準正課の活動における教職員からの支援・学生の経験とキャリアレジリエンスの関係
○池田めぐみ（東京大学大学院）、伏木田稚子（首都大学東京）、山内祐平（東京大学大学院、非会員）
10:10～10:30　日本の大学における効果的なアカデミック･アドバイジングの在り方－進路選択支援と学習支援との連携－
○中野正俊（金沢大学）、井上咲希（金沢大学）、杉森公一（金沢大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　キャリア支援のガイダンス機能をめぐる大学組織の研究－国立大学職員の支援と専門性に着目して－
○岡靖子（愛媛大学）
11:00～11:20　学生支援における質保証とその評価指標
○蝶慎一（大学改革支援・学位授与機構）
11:20～11:40　総合討論

部会８　教学 IR・学習成果測定(1)
会　場：5C406
司　会：近田政博（神戸大学）、深堀聰子（九州大学）

9:30～ 9:50　若手社会人の自己効力感と学生時代の学習経験―パネル調査の分析から
○二宮祐（群馬大学）
9:50～10:10　卒業研究の研究 その 3：学修成果との関連を中心に
○串本剛（東北大学）
10:10～10:30　潜在クラス分析を用いた学生タイプの抽出とその特徴の検討 ：能力の成長感を指標として
○畑野快（大阪府立大学）、上垣友香里（大阪府立大学、非会員）、星野聡孝（大阪府立大学）、高橋哲也（大阪府立大学）
10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　大学生の成長を捉えるための取り組み―四日市大学成長スケール 2016 年度作成版と進路決定の関連―
○齋藤信（四日市大学）
11:00～11:20 スチューデント・アシスタントを事例とした任意参加型プログラムの因果効果推計
○田尻慎太郎（横浜商科大学）
11:20～11:40 総合討論

部会９　キャリア教育・教職協働・教職員能力開発
会　場：5C508
司　会：秦敬治（岡山理科大学）、出光直樹（横浜市立大学）
9:30～ 9:50 豪州における大学職員と職能開発の動向
○高野篤子（大正大学）、○杉本和弘（東北大学）
9:50～10:10 人生 100 年時代の SD：大学院科目から見えてきたこと
○江原昭博（関西学院大学）
10:10～10:30 学内 FD プログラム支援における中間組織の役割
○戸村理（國學院大學）、○小濱歩（國學院大學）
10:30～10:40 休憩
10:40～11:00 FD プログラムの効果検証－授業評価結果と FD プログラムへの参加期間との関係性－
○沖裕貴（立命館大学）、高比良美永子（立正大学、非会員）、杉井俊夫（中部大学）、西川鉱治（中部大学、非会員）
11:00～11:20 プレ FD における教育実践研究計画の特徴
○大山牧子（大阪大学）、佐藤浩章（大阪大学）
11:20～11:40 大学院生の能力・キャリア開発における学内外連携の在り方と可能性
○家島明彦（大阪大学）
11:40～12:00 総合討論

部会１０　ラーニングコモンズ・学生参画
会　場：5C507
司　会：橋本勝（富山大学）、中井俊樹（愛媛大学）
9:30～ 9:50 授業外学習とラーニング･コモンズの利用に関する調査 -東北学院大学 文系学部3年生を対象に-
○遠海友紀（東北学院大学）、嶋田みのり（東北学院大学）、佐藤恵（東北学院大学）、稲垣忠（東北学院大学、非会員）、加藤健二（東北学院大学、非会員）
9:50～10:10 学部ゼミ担当教員がラーニング・コモンズに期待する学習支援に関する調査
○嶋田みのり（東北学院大学）、遠海友紀（東北学院大学）、佐藤恵（東北学院大学）、稲垣忠（東北学院大学、非会員）、加藤健二（東北学院大学、非会員）
10:10～10:30 日本の高等教育における学生参画型支援プログラムの類型に関する一考察
○鈴木学（福島大学）
10:30～10:40 休憩
10:40～11:00 PAL（Peer Assisted Learning）を支える学生アシスタントの学びについて
○岩崎千晶（関西大学）、三浦真琴（関西大学）
11:00～11:20 PAL（Peer Assisted Learning）を支える学生アシスタントの育ちについて
○三浦真琴（関西大学）、岩崎千晶（関西大学）
11:20～11:40 総合討論

12：00～13：00　昼食

13：00～15：00　自由研究発表 II　　（○は登壇者）

部会１１　教育方法・授業改善

会　場：5C308

司　会：橋本健夫（長崎国際大学）、杉原真晃（聖心女子大学）

13:00～13:20 カヤックを使った自然体験活動を伴う授業の教育効果－3 年間の調査結果のまとめ－
○松尾美香（岡山理科大学）、○望月雅光（創価大学）

13:20～13:40 ピアレビューによる教育効果・改善に関する考察―全教員を対象した大学の事例をもとに―
○岸岡奈津子（立命館大学）、秦敬治（岡山理科大学）、藤本祥之（追手門学院大学、非会員）

13:40～14:00 多様な学びを創る PBL カリキュラムの検討
○広石英記（東京電機大学）

14:00～14:20 常時公開した授業に関わった過去５年間の学外ボランティアは、何を期待し、何を学んだか？
○筒井洋一（京都工芸繊維大学）

14:20～14:40 「チームビルディングを活用したグループ活動」の可視化によって授業外活動を活性化することはできるのか
○本田直也（大手前大学）、川崎弘也（ラーニングバリュー）

14:40～15:00 総合討論

部会１２　教育方法・授業改善(6)

会　場：5C307

司　会：大森不二雄（東北大学）、杉谷祐美子（青山学院大学）

13:00～13:20 学生と地域の変容(transformation)を包括したサービス・ラーニング評価理論の開発
○市川享子（東海大学）

13:20～13:40 授業評価アンケート、成績、授業形態データに基づく授業改善指標の検討
○原田健太郎（島根大学）、岩瀬峰代（島根大学）、鹿住大助（島根大学）

13:40～14:00 産学協同型PBL科目におけるルーブリック評価を活用した教育効果の検証　－学生の「振り返り」に着目して－
○今西正和（法政大学大学院）

14:00～14:20 介護実習評価ルーブリックの開発
○福田洋子（高田短期大学、非会員）、鷲尾敦（高田短期大学、非会員）、野呂健一（高田短期大学、非会員）、寳來敬章（高田短期大学、非会員）

14:20～14:40 PBL 型の授業における、学びのモチベーション喚起への取り組み ―ルーブリック、自己評価、フィードバックの活用―
○川崎弘也（ラーニングバリュー）、本田直也（大手前大学）

14:40～15:00 総合討論

部会１３　教育方法･授業改善(7)

会　場：5C302

司　会：菅野憲司（千葉大学）、石渡尊子（桜美林大学）

13:00～13:20 クリッカーはなぜ活用されないのか～大規模授業での効果検証と運用の壁～
○古賀暁彦（産業能率大学）

13:20～13:40 反転授業における学生の事前学習の取り組み方：事前学習時間と成績に着目して
○澁川幸加（京都大学大学院）、田口真奈（京都大学）

13:40～14:00 論理的思考力の育成を目指したディベートの授業
○内藤真理子（神田外語大学）、西村由美（関西学院大学､非会員）

14:00～14:20 初年次アカデミック・ライティングに求められる「説得力」の指導に向けて
○近藤裕子（山梨学院大学）、中村かおり（拓殖大学）、向井留実子（東京大学）

14:20～14:40 ライティングとピア・ダイアローグとの関係　－思考の揺れを可視化する方法の検討－
○小林恭士（宮城教育大学）、福島邦幸（宮城教育大学、非会員）

14:40～15:00 総合討論

部会１４　学士課程教育・カリキュラム(3)
会　場：5C301
司　会：高橋哲也（大阪府立大学）、串本剛（東北大学）
13:00～13:20　科目レベルとプログラムレベルの評価をつなぐ―重要科目での埋め込み型パフォーマンス評価(PEPA)を通して―
○松下佳代（京都大学）、小野和宏（新潟大学）、斎藤有吾（京都大学）
13:20～13:40　科目レベルとプログラムレベルの評価をつなぐ－新潟大学歯学部における重要科目での埋め込み型パフォーマンス評価(PEPA)－
○小野和宏（新潟大学）、松下佳代（京都大学）、斎藤有吾（京都大学）
13:40～14:00　カリキュラムアセスメントが教学マネジメントに及ぼす効果
○君島菜菜（大正大学）、○山内洋（大正大学）、小幡誉子（大正大学、非会員）、吉田俊弘（大正大学、非会員）、高橋慈海（大正大学、非会員）、福中裕之（大正大学、非会員）
14:00～14:20　学科の取り組みと学生のジェネッリックスキルの関係
○草薙康城（愛媛県立医療技術大学）、鳥居順子（愛媛県立医療技術大学､非会員）、野村美千江（愛媛県立医療技術大学、非会員）、佐田榮司（愛媛県立医療技術大学、非会員）、中西純子（愛媛県立医療技術大学、非会員）
14:20～14:40　ディプロマ･ポリシーの認知と学習成果の関係―同志社大学社会学部教育文化学科を対象とした調査から―
○竹永啓悟（同志社大学大学院）、○山田礼子（同志社大学）
14:40～15:00　総合討論

部会１５　学生支援(2)
会　場：5C317
司　会：沖清豪（早稲田大学）、山田剛史（京都大学）
13:00～13:20　大学教育のユニバーサル化に向けたアクセシビリティに関する授業の展開
○小川勤（山口大学）、岡田菜穂子（山口大学）
13:20～13:40　障害のある学生支援における合理的配慮の妥当性
○田実潔（北星学園大学）、佐藤祐基（北星学園大学、非会員）
13:40～14:00　大学における発達障害・発達障害傾向がある学生へ就職支援
○高島恭子（長崎国際大学）、松永千恵子（国際医療福祉大学、非会員）、朝日雅也（埼玉県立大学、非会員）
14:00～14:20　学業とスポーツを両立させる学生支援体制の構築に関する考察
○長倉富貴（山梨学院大学）
14:20～14:40　「再履修クラス」の教育実践を通じた全人的リメディアル教育
○鷲北貴史（東京経済大学・湘南工科大学）
14:40～15:00　総合討論

部会１６　教学 IR・学習成果測定(2)
会　場：5C316
司　会：佐々木一也（立教大学）、鳥居朋子（立命館大学）
13:00～13:20　アセスメント･ポリシーとアセスメント･マップによる学修評価システムの構築について
○島義博（北陸大学）、山本啓一（北陸大学）、鈴木大輔（北陸大学、非会員）
13:20～13:40　研究大学における学生の学習経験の国際比較研究
○和嶋雄一郎（大阪大学）、○安部有紀子（大阪大学）、川嶋太津夫（大阪大学）、田川千尋（大阪大学）
13:40～14:00　学生意識調査の有効活用に向けて　－学生自ら分析することの意義－
○稲積宏誠（青山学院大学）
14:00～14:20　機関別認証評価における学習成果を示す評価情報―国立大学を中心に―
○高森智嗣（福島大学）

14:20～14:40 到達確認試験における問題開発の現状と課題
○吉田武大（関西国際大学）
14:40～15:00 総合討論

部会１７　高大連携・高大接続・学生意識
会　場：5C406
司　会：大塚雄作（京都大学名誉教授、大学入試センター名誉教授）、出光直樹（横浜市立大学）
13:00～13:20 科学技術者倫理をキーワードとする工業高校との高大連携の可能性について
○西村秀雄（金沢工業大学）
13:20～13:40 探究的な学びでつくる高大接続プログラムの実践とその考察
○井上咲希（金沢大学）、松田淑子（金沢大学）、中野正俊（金沢大学）、杉森公一（金沢大学）、風間重利（金沢大学、非会員）
13:40～14:00 探究的な学びでつなぐ高大接続プログラムの開発～高大接続ラウンドテーブルの設計と意義～
○松田淑子（金沢大学）、井上咲希（金沢大学）、中野正俊（金沢大学）、杉森公一（金沢大学）、風間重利（金沢大学、非会員）
14:00～14:20 短大生の短期大学教育に対する意識と評価―短期大学生調査の経年分析から―
○宮里翔大（桜美林大学大学院）、堺完（立教大学）、山崎慎一（桜美林大学）、黄海玉（短期大学基準協会、非会員）
14:20～14:40 学生自身の満足感と学業成績の関連への再考:学修観と単位取得状況をめぐるケーススタディ
○たなかよしこ（日本工業大学）、河住有希子（日本工業大学）
14:40～15:00 総合討論

部会１８　初年次教育
会　場：5C508
司　会：川嶋太津夫（大阪大学）、吉永契一郎（金沢大学）
13:00～13:20 自校教育が初年次生にもたらした変化について～「追手門 UI 論」の取り組みをもとに～
○梅村修（追手門学院大学）
13:20～13:40 初年次学生のレポート作成プロセスからみた「コピペ」の実態
○宮本淳（愛知医科大学）、仙石昌也（愛知医科大学）、橋本貴宏（愛知医科大学）、山森孝彦（愛知医科大学）、久留有紀子（愛知医科大学）
13:40～14:00 低下しているとされる「学生の日本語力」とは何なのか
○須長一幸（福岡大学）、
14:00～14:20 学生の質保証に向けた初年次教育改革の取り組みー熊本大学を事例にー
○川越明日香（熊本大学）
14:20～14:40 総合討論

部会１９　大学運営・IR
会　場：5C507
司　会：舘昭（桜美林大学）、大西好宣（千葉大学）
13:00～13:20 国際認証による高等教育の質保証
○伊藤博（名古屋商科大学）
13:20～13:40 台湾及び中国の大学院制度に関する考察
○戸田千速（東京大学）、高橋孝治（前・中国政法大学大学院、非会員）、纓坂英子（駿河台大学、非会員）、張　瀞方（台湾・愛楽活社会企業、非会員）、林詩吟（台湾・崑山科技大学，非会員）、松岡昌和（東京藝術大学、非会員）
13:40～14:00 米国コミュニティカレッジにおける授業料無料化と高等教育の使命
○宇田川拓雄（流通科学大学）、
14:00～14:20 日本の大学は IR にどのくらいの人的資源を投入しているか
○白石哲也（清泉女子大学）、○橋本智也（四天王寺大学）、蔦田敏行（茨城大学、非会員）、小湊貞夫（九州大学）
14:20～14:40 京都外国語大学における IR 基盤整備の現状と課題 ―IR データベースへのデータ集約とレポ

ート自動生成を中心に―
○西出崇（京都外国語大学）
14:40～15:00 総合討論

部会２０　理工系教育
会　場：5C513
司　会：安岡高志（立命館大学）、谷合哲行（千葉工業大学）
13:00～13:20 STEM 教育の展開を促進する初年次教育プログラムに関する研究
○黒田友貴（愛媛大学、静岡大学大学院）
13:20～13:40 ハテナソン授業の設計・運営と成果・課題：生命科学専門教育科目における実践と調査
○佐藤賢一（京都産業大学、非会員）
13:40～14:00 理工系のアカデミックライティング教育－実験レポートの指導を中心に－
○齋藤芳子（名古屋大学）
14:00～14:20 全学共通の科学リテラシー科目「実感する科学」の実施と e-learning の導入
○山本一雄（神奈川工科大学、非会員）、藤村陽（神奈川工科大学、非会員）、栗田泰生（神奈川工科大学）、神谷克政（神奈川工科大学、非会員）
14:20～14:40 教養教育における理工系学生のための科学リテラシーと社会リテラシー-アクティブ・ラーニングを導入して-
○内山弘美（大学非常勤講師）
14:40～15:00 総合討論

15:00～15:15　休憩

15:15～16:45　ポストワークショップ（会員限定、事前受付者のみ）

ポストワークショップ A「学生の学修を促すシラバスの書き方と授業設計」
講師：中島英博（名古屋大学）・榊原暢久（芝浦工業大学）、会場：5C316

ポストワークショップ B「剽窃を防ぎ、学生を思考にいざなうレポート課題の出し方」
講師：成瀬尚志会員（長崎大学）、会場：5C317

３．参加申し込みについて　（申込み期間：4 月 18 日～5 月 11 日）

大会への参加申し込みは下記 URL からご登録ください。学会ホームページからアクセスできます。

▼大会参加申し込み URL →　https://amarys-jtb.jp/daigakukyoiku/

第 40 回大会におけるすべての申込み（大会参加、要旨集のみ購入、弁当、宿泊、若手交流会参加、ポストワークショップ参加）は、大会ホームページから行っていただけます。若手交流会参加費のみ当日現地徴収とし、その他（大会参加、弁当、宿泊、ポストワークショップ参加）の支払手続きはすべて大会ホームページ上で選択いただけます。オンライン決済（クレジットカード、ネット振込）、コンビニ･金融機関等での支払い（コンビニエンスストア、ペイジー利用の ATM 支払い、銀行振込）に対応しています。

【参加費用一覧】　**※申込期限は 5/11 金、支払期限は 5/18 金です。コンビニ･金融機関等での支払いを 5/11 までに選択された後、5/18 までにお支払いにならなかった場合は、大会当日料金となりますので、ご注意ください。**

費用項目		申込日	
		5 月 18 日(金)までの事前支払	大会当日
参加費	会員・一般	5,000 円	6,000 円
	学生	2,000 円	3,000 円
情報交換会費	会員・一般	5,000 円	6,000 円
	学生	3,000 円	4,000 円
6/9 土、6/10 日のお弁当代		各 1,000 円（税込）	
『要旨集』のみ希望		2,000 円（送料込）	
6/9 土　情報交換会終了後の若手交流会参加費（会員・一般・学生）		5 月 11 日（金）までにお申込みください。会費（3,000 円）については当日徴収します。都合が悪くなった場合は 6 月 6 日（水）までに yngmbs@googlegroups.com 宛にキャンセルの連絡をしてください。それ以降はキャンセル料が発生する場合があります。	
6/10 日 ポストワークショップ参加費（会員限定）（事前受付者のみ）		ポストワークショップ A・B 各 50 名先着で、大会ホームページ上で参加申込受け付けます（締切：5 月 11 日）。参加費（5,000 円、テキスト代込み）納入手続きも、大会ホームページ上で行ってください。その後に参加不可になった場合も返金はできません。代理の方に出席いただくことは可能です。どなたも参加できない場合はテキストを後日郵送します。テキストが不要でも割引はありません。	

●要旨集費（2,000 円）は、大会に参加されず『要旨集』のみご希望の方が対象です。

●本大会では、郵便振込による各種支払を採用していませんので、ご注意ください。

４．宿泊予約について

本大会にご参加の皆様方の宿泊は、「JTB 関東 法人営業茨城南支店」にて案内させていただきます。予約は先着順となりますので、ご宿泊手配ご希望のご参加の皆様は、上記の大会ホームページからお申し込みください。

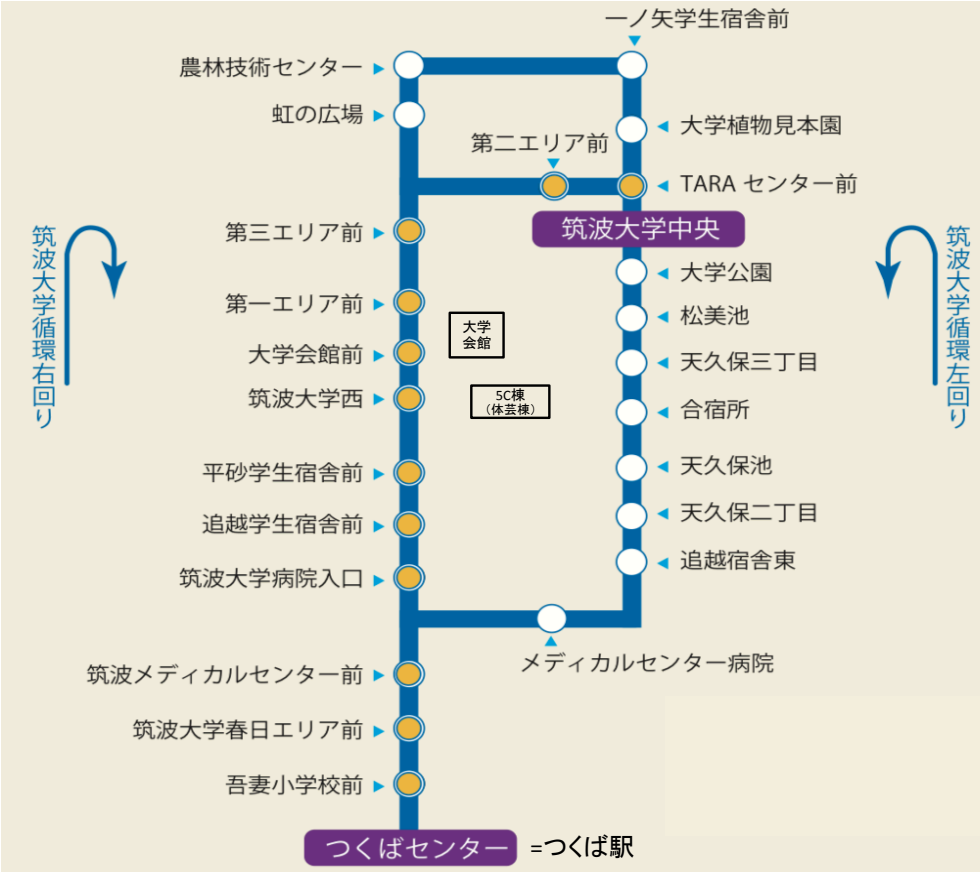
※ 本大会では、託児室を開設いたしません。ご了解のほどよろしくお願いいたします。

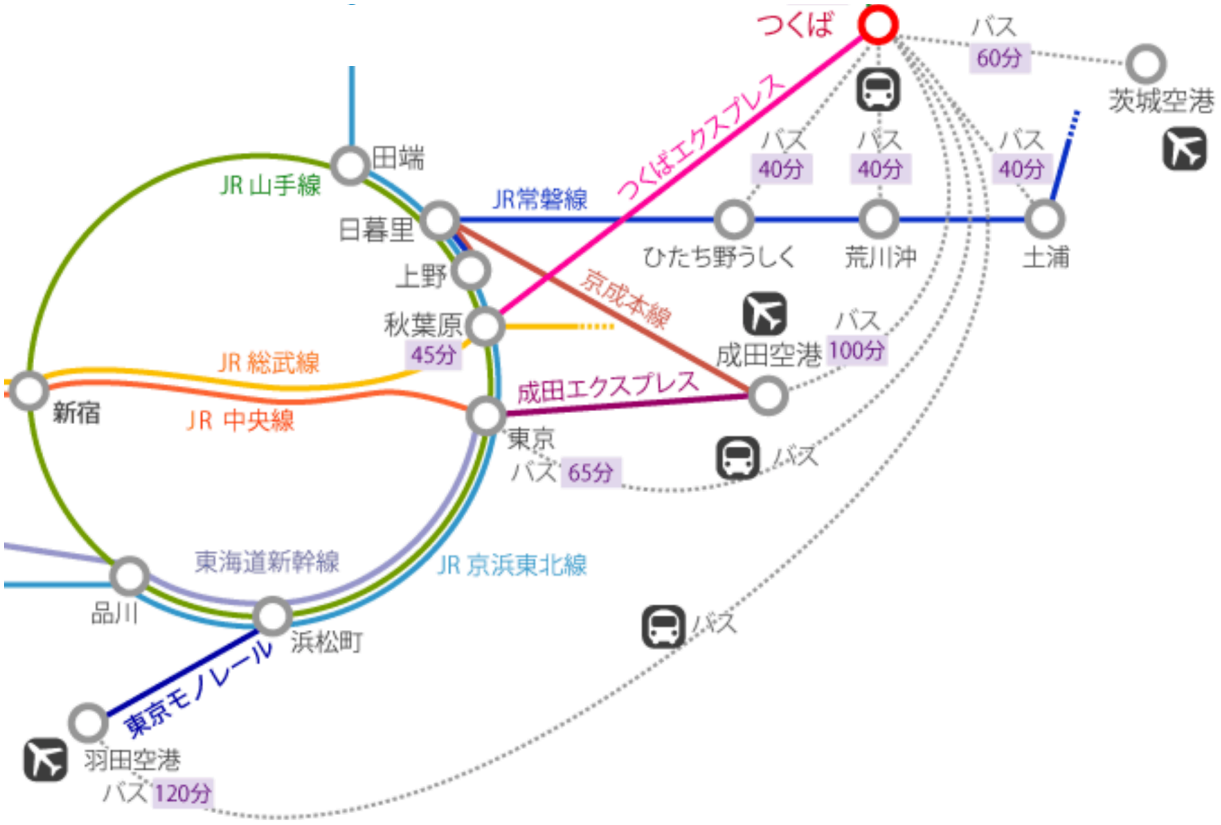
５．大会会場へのアクセス

①つくば駅（つくばセンター）から　※筑波大学 5C 棟へは、距離にして約 3km です。徒歩 30-40 分。

・**路線バス（10 分 200 円、5-7 分に 1 便発車）**　A3 出口（TX つくば駅改札出て右前方のエスカレータ昇る）バス乗り場 6 番より「筑波大学中央」「筑波大学循環（右回り）」行きへ乗車後、筑波大学西で下車。「筑波大学循環（左回り）」行きへ乗車の場合、合宿所で下車。

・**タクシー（5 分 1200 円）**　A3 出口エスカレータ降りてすぐ。「体芸棟近くの筑波大学西バス停」へ。





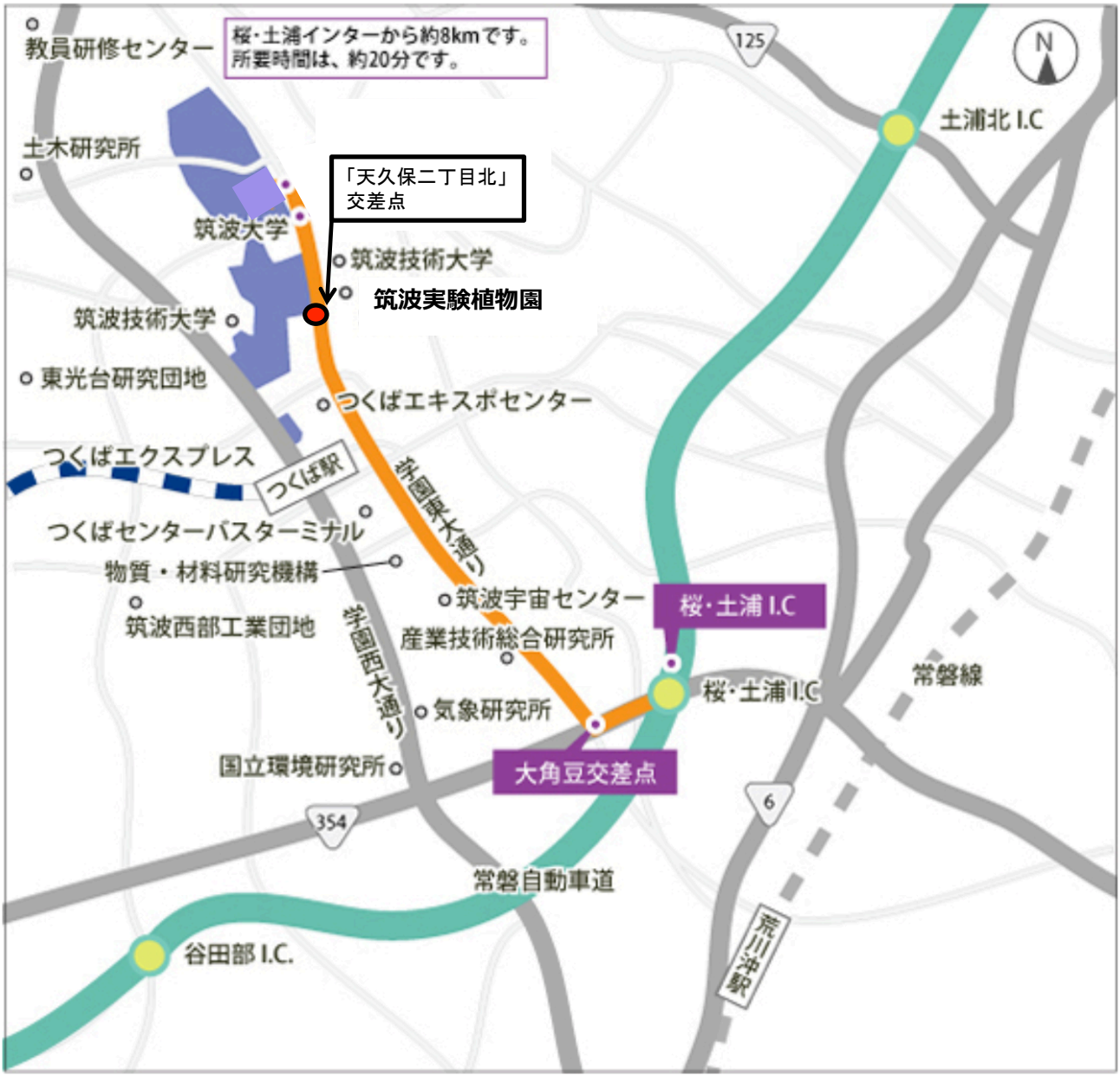
つくば駅からの臨時便バスの手配は行っていません。つくば駅から筑波大学へ向けて，両日とも 8 時台は 11 便，9 時台は 9 便の路線バスが運行されています。8 時半以降は混雑が予想されますので、少しお早めのお越しをお勧めいたします。

種別	土日祝		
行先	筑波大学中央	筑波大学循環　（右回り）	筑波大学循環　（左回り）
経由	第二エリア前	筑波大学病院入口　筑波大学中央	筑波大学中央　筑波大学病院入口
5			
6	33 48	00 40	低20
7	25 45	20	低00 低40
8	02 10 大24 32 42 大42 47 55	00 40	低20
9	07 大09 パ10 25 大37 45	20	低00 低40
10	低05 低25 45	00 40	20
11	パ05 25 45	20	00 40
12	低05 30 パ45	低00 低40	20
13	05 25 45	低20	00 40
14	05 低25 45	低00 40	低20
15	05 25 45	20	低00 低40
16	低05 25 低45	00 40	20
17	05 45	20	00 40
18	05 低40	00 40	20
19	15 低55	20	低00 低40
20	低35	00 40	低20
21	低40	20	低00 40
22		00 35	20
23			
0			
1			
備考	道路状況により遅れが生じる場合がありますのでご了承願います。 8月13日～16日および12月29日～31日は土・日祝日ダイヤで運行いたします。 低…低床バス運行予定（変更の場合あり） パ…パープルバスが運行致します 大…筑波大学中央行 お問合せ先 土浦営業所 029-822-5345		

②自家用車でお越しの場合

常磐自動車道「桜土浦 IC」下車。筑波方面へ左折
→大角豆（ささぎ）交差点を右折
→県道 55 号線「東大通り（ひがしおおどおり）」を北に直進
→交差点「天久保二丁目北」を左折
→その後については次頁の詳細図参照

※ 圏央道「つくば中央 IC」下車でも来学いただけます。その場合も、下図「筑波実験植物園」前の「天久保二丁目北」交差点を左折し、次頁の詳細図に従ってご来場ください。

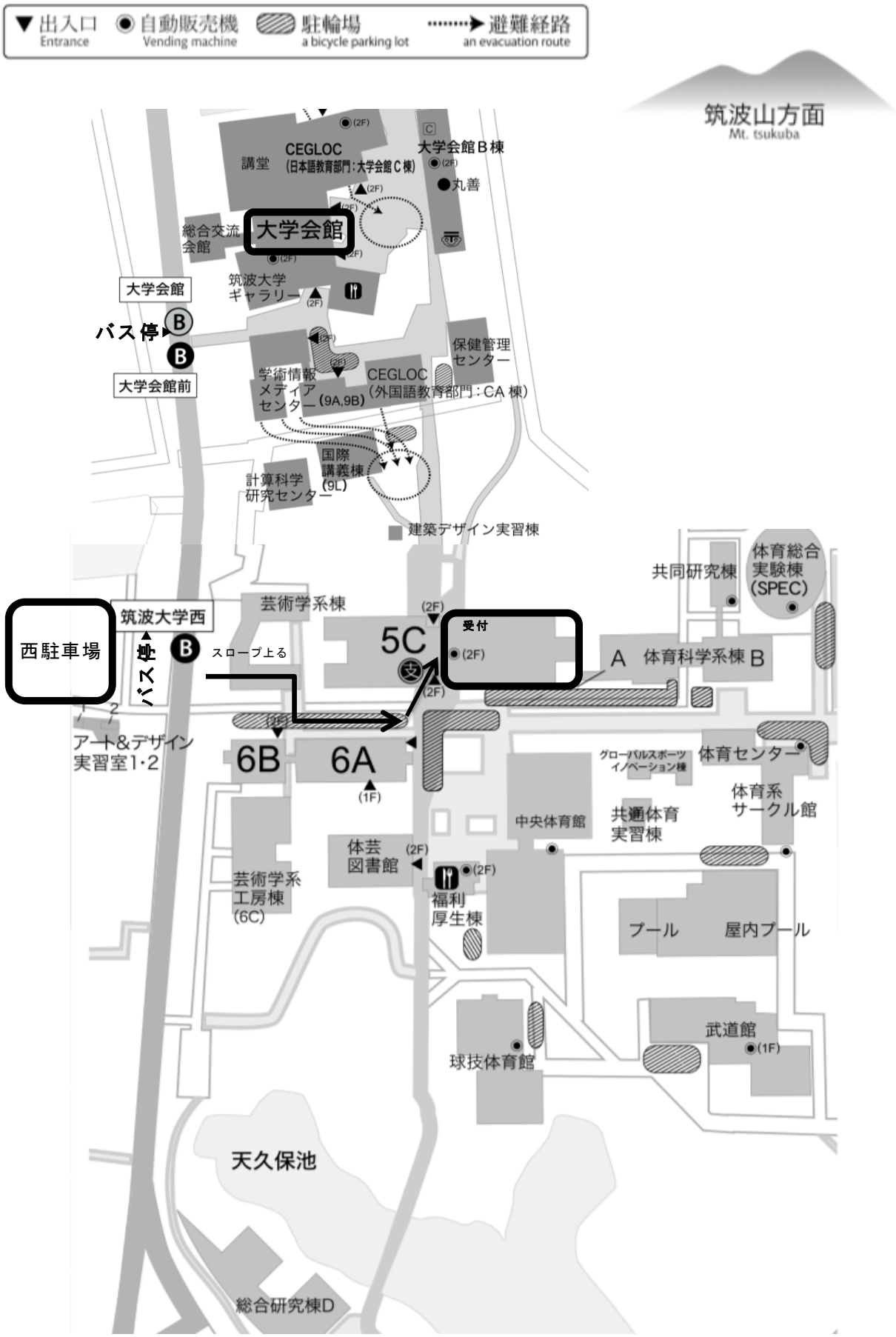


筑波キャンパス案内
南地区

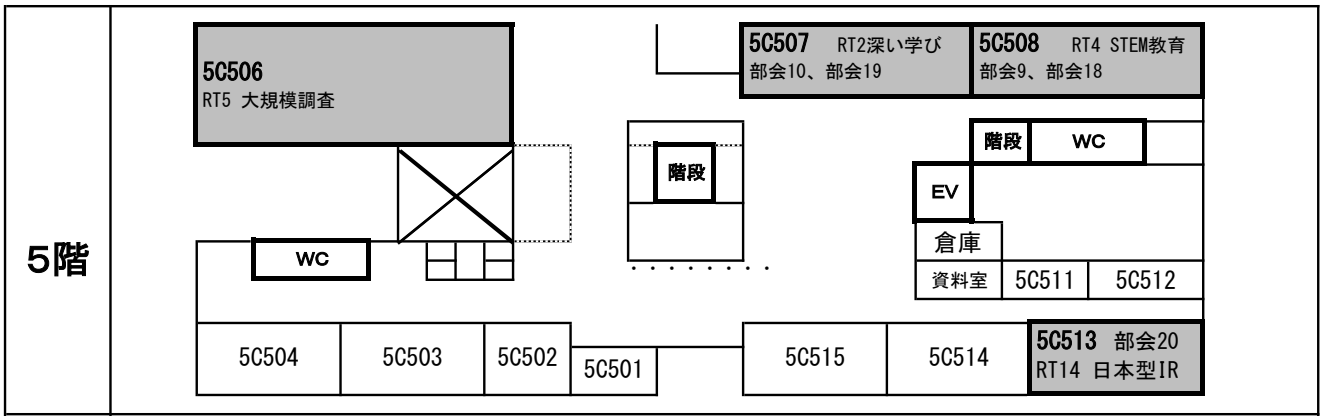
お車でお越しの方は、西駐車場へ駐車ください。

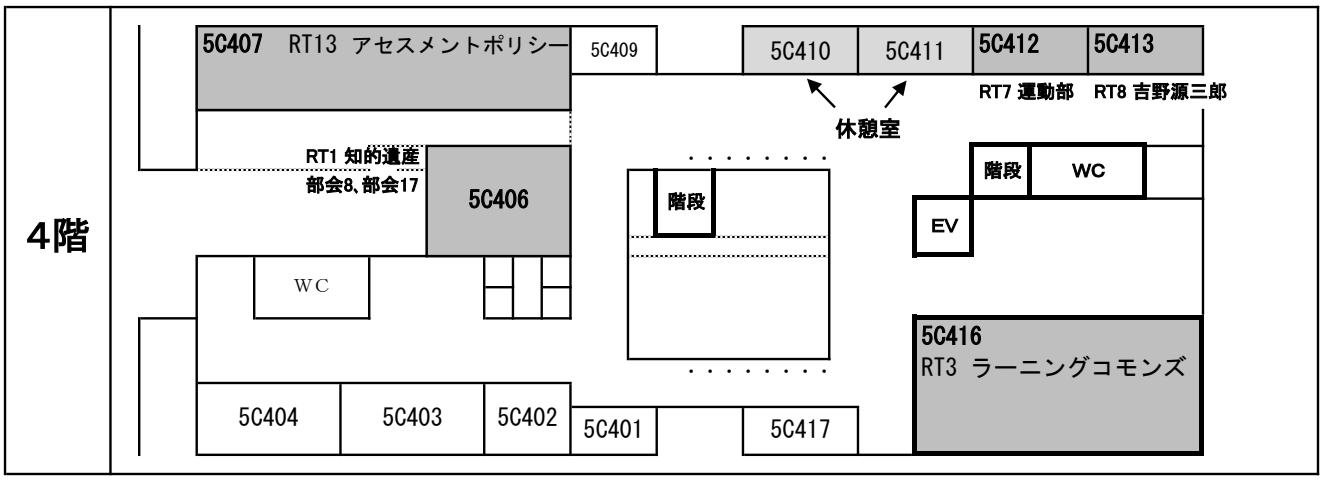
西駐車場の収容台数 200 台（無料）を超過した場合は、学外の有料駐車場へ移動いただきますので、ご了解ください。

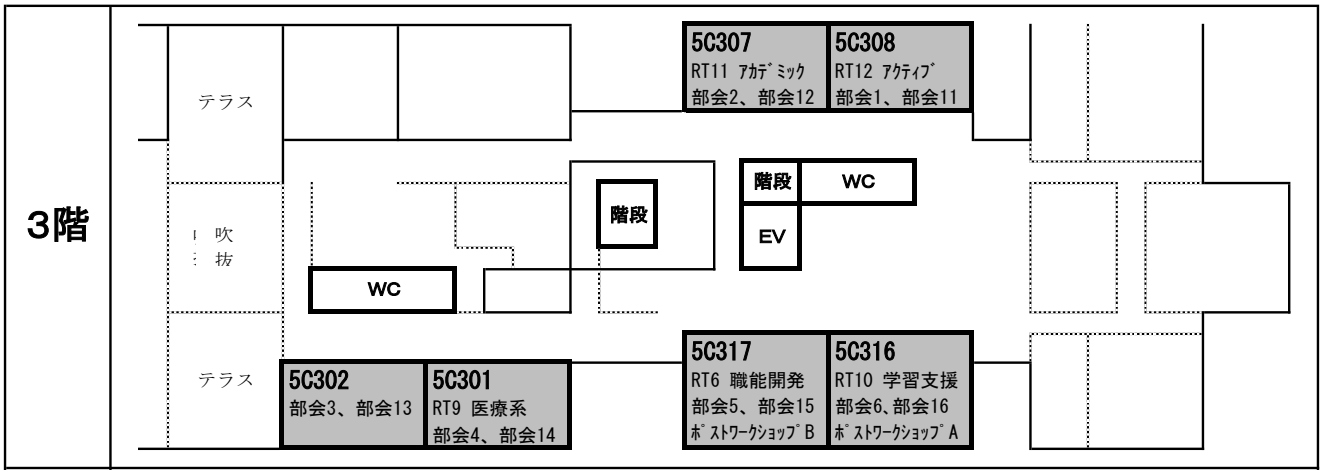
筑波大学 5C 棟（体芸棟）および大学会館

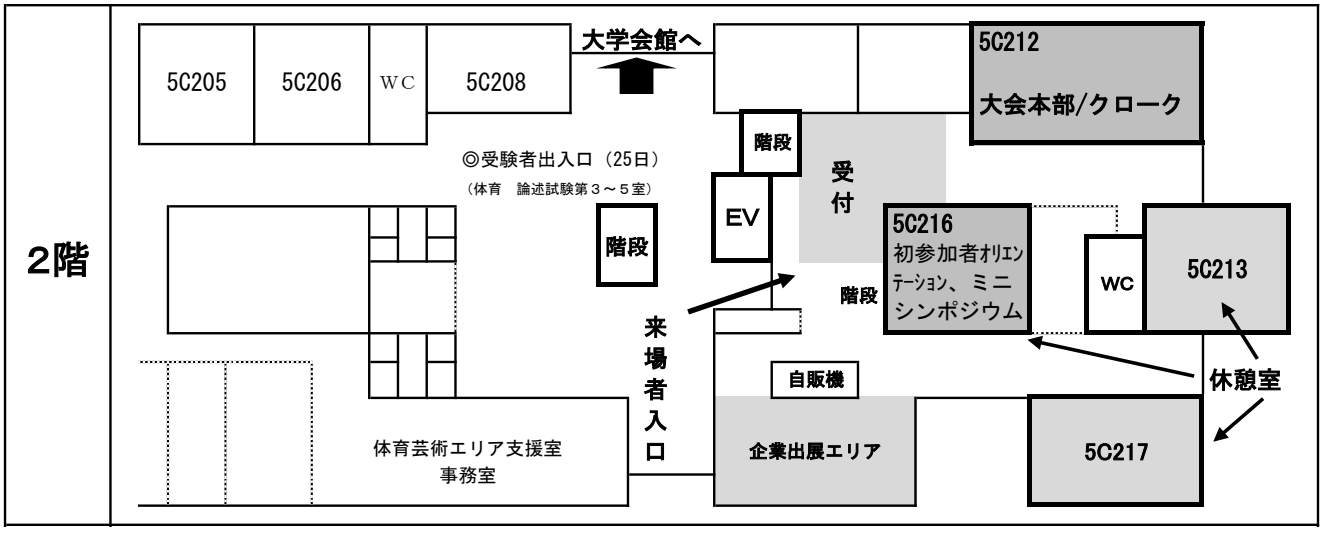


5C 棟（体芸棟）教室配置図









懇親会会場のご案内

ホテルグランド東雲
（つくば市小野崎 488-1、TX つくば駅徒歩 8 分）

休憩場所

5C213：6/9 土の 9:00-13:00、6/10 日の 9:00-13:00
5C216：6/9 土の 10:00-13:00
5C217：6/9 土の 9:00-13:00、6/10 日の 9:00-13:00

お弁当配付と昼食場所

6/9 土と 6/10 日の両日とも、11:30-12:30 に、5C213 にてお弁当を配布いたします（事前申込者のみ）。同室 5C213 に加えて、隣接する 5C216 および 5C217 においても、お食事していただけます。

理事会便り

（理事会の詳細は、ウェブサイトの会員ページに掲載されています。）

● 新規課題研究の選定について

新規課題研究として2課題が選定されました。

① 「学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望 （研究代表者：井下千以子）」、研究期間：2018年4月～2021年3月

② 「アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究（研究代表者：杉森公一）」、研究期間：2018年4月～2021年3月

● 第13回大学教育学会奨励賞について

第13回（2018年度）大学教育学会奨励賞は、谷美奈会員（帝塚山大学）が受賞されることになりました。受賞対象論文は、『大学教育学会誌』第39巻第1号に掲載された《事例研究論文》「自己形成史におけるパーソナル・ライティングの意味 ―パーソナル・ライティングを経験した元学生(当事者)への聞き取り調査から ―」です。6月9日（土）の2017年度事業報告会において授賞式が執りおこなわれます。

●「JACUEセレクション2018」の認定候補について

「JACUE セレクション 2018」として以下の 5 冊が認定候補となりました。

① 金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『本質から考え行動する科学技術者倫理』2017 年、白桃書房

② 井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門－論理的な考え方、書き方からキャリアデザインまで』2017 年、慶応義塾大学出版会株式会社

③ 全国大学生活協同組合連合会教職員委員会監修、玉真之介編著『大学教育と読書－大学生協からの問題喚起－』2017 年、大学教育出版

④ 佐藤浩章、中井俊樹、小島佐恵子、城間祥子、杉谷祐美子編『大学の FD　Q&A』2016 年、玉川大学出版部

⑤ 関東地区 IR 研究会監修、松田岳士、森雅生、相生芳晴、姉川恭子編著『大学 IR スタンダード指標集 ―教育質保証から財務まで―』2017 年、玉川大学出版部

所要の手続きを経て正式に認定されれば、6 月 9 日（土）の 2017 年度事業報告会において認定式を執りおこなう予定です。

● 大学教育学会第41回（2019年度）大会について

第41回大会（2019年度）は、2019年6月1日（土）・2日（日）に玉川大学にて開催予定です。

●2018 年度大学教育学会課題研究集会について

2018 年度課題研究集会　企画委員会・実行委員会

2018 年度大学教育学会課題研究集会（開催校：長崎国際大学）は、本年（2018 年）の 12 月 1 日（土）～2 日（日）に長崎国際大学キャンパスで開催されます。今回の課題研究集会のテーマは、「多様な学生が学び、共に成長するキャンパスへ　－国際社会に開かれ、未来を創る大学の実現―　」です。

現在の大学は、二つの大きな課題を抱えています。一つは、急速に進む社会の IT 化やグローバル化の中で、未来社会に向けて確実な一歩が踏み出せる人材の育成であり、もう一つは、そのための多様で充実した教育の展開を可能にする経営基盤の確立です。ただ、これらの課題を乗り越えるためには、18 歳人口の減少や若者の都市部への流出などにどう向き合うかが問われています。さらに、入学定員を充たすことの難しい地方の中小大学にとっては、文科省の補助金カットという厳しい現実が待ち受けています。この生き残りをかけた大きな課題に柔軟に対応し、主体的な学生を多数輩出する将来への展望を切り開いていく不断の努力こそが、社会から期待される大学としての地位を不動のものにすると考え、テーマにその想いを込めました。記念講演と開催校シンポジウムもテーマに沿って企画致しました。

1.　課題研究集会スケジュール

3 月 24 日に開かれました理事会において、課題研究集会の方針やスケジュールが認められましたので、その概要をご紹介いたします。なお、理事会では次に②と③として示す課題研究が新しく認められました。従って、本課題研究集会では次の①～③の課題研究発表が行われることになります。

① 現代のリベラルアーツとしての理数工系科目（STEM）の開発と教育実践のために
② 学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望
③ アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究

一方、課題研究発表の他にどのような形で会員の皆様に参加して頂くかを検討致しました。その結果、本会場の地理的要因による時間的な制約も考慮し、前年度の課題研究集会で行われたインターラクティブ・セッションに関しては、今回は見送りさせて頂き、ポスター・セッションのみを実施することに致しました。従って、本課題研究集会のスケジュールは次のようになります。

12 月 1 日（土）	9：00	～		理　事　受付
	9：30	～	12：30	理事会
	9：30	～		一般会員　受付
	10：00	～	12：15	ポスター・セッション
	12：15	～	13：00	昼　　食
	13：00	～	13：30	開会行事
	13：40	～	15：00	記念講演
	15：10	～	17：00	開催校シンポジウム
	17：30	～	19：00	情報交換会
12 月 2 日（日）	9：00	～		受　付
	9：30	～	12：00	課題研究シンポジウム①
	12：00	～	13：00	昼　　食
	13：00	～	15：30	課題研究シンポジウム②
				課題研究シンポジウム③
	15：30	～	16：00	閉会行事

※ ポスター・セッションに関しては、発表される会員間の意見交換も重要と考え、会場を複数にし、できるだけ長めの時間を設定したいと思っておりますが、参加される方が予想以上に多い場合は、前半と後半に分けることもあります。
※ 理事の皆様は、理事会の休憩時間中にポスター・セッションに、ご参加下さい。
※ プログラムに関しては、変更する場合があります。詳細は次号のニュースレターでお知らせします。

2. 記念講演及び開催校シンポジウム

前述しましたように、課題研究集会のテーマに沿った議論が深められればと考え、企画致しました。現時点で登壇して頂く方々が決定しておりますので、紹介させていただきます。

① 記念講演

講　師　：　小宮山　宏　氏（三菱総合研究所、理事長）

司　会　：　池田輝政　氏（追手門学院大学、教授）

② 開催校シンポジウム

登壇者　：　平田純一　氏（立命館アジア太平洋大学、教授）

岩重聡美　氏（長崎県立大学、教授）

近藤武夫　氏（東京大学、准教授）

清水明男　氏（学校法人羽衣学園常務理事、羽衣国際大学事務局長）

座　長　：　鳥居朋子　氏（立命館大学、教授）

3. ポスター・セッションに関する今後の予定

2018 年 7 月 2 日（月）　発表申し込み開始（学会ウェブサイトで案内）

2018 年 8 月 18 日（土）　発表申し込み締め切り

2018 年 9 月上旬　発表可否通知メール送信

2018 年 9 月 29 日（土）　発表要旨原稿提出締め切り

会場は日本の西端に位置し、全国から参加して頂くには非常に遠く感じられるかもしれません。また、長旅になられるかもしれませんが、長閑で自然豊かな場所に立地する地方の小さな大学の良さを知っていただければと思っています。お隣が、花や夜間のイルミネーションで有名なハウステンボスです。これを機に訪れていただくのもいいかもしれません。交通のアクセスを始めとしてご滞在中に関しては、皆様に不便をおかけしないよう万全の体制をとりたいと思っています。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

＝事務局から＝

● 年会費のクレジットカード決済のご案内

2018年度より、年会費のクレジットカードによるオンライン決済ができるようになりました。
同時に領収書のオンライン発行も可能となりましたので、ご利用ください。

＜クレジット決済の利用方法＞

①大学教育学会ウェブサイトから「会員ページ」にログインし、「会員メニュー」の「会員情報の照会・更新」のページに入ります。
②会員情報管理認証画面に移行しますので、もう一度、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
③会員情報管理メニューの「年会費のクレジット決済」のボタンをクリックします。
④会費の納付状況が示されますので、納付状況を確認の上、下部の「オンライン決済へ進む」ボタンをクリックします。
・過年度分の会費が未納になっている方は、「年会費請求額」および「決済金額」を確認してください。
・デフォルトで未納分を合算した請求額を決済金額としていますので、単年度のみの決済を希望される場合は、決済金額を変更してください。この場合、古い年度分から決済されます。
⑤オンライン決済画面では、決済金額を確認し、クレジットカード情報を入力してください。
・クレジットカード情報等の決済内容は、決済代行会社に送信されるだけで、大学教育学会のサーバーに蓄積されることはありません。また、決済代行会社への通信は、SSL暗号化通信により、通信の秘密は保持されます。

＜領収書のオンライン発行の手順＞

①大学教育学会ウェブサイトから「会員ページ」にログインし、「会員メニュー」の「会員情報の照会・更新」のページに入ります。
②会員情報管理認証画面に移行しますので、もう一度、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
③会員情報管理メニューの「年度別に会費を照会する」のボタンをクリックします。
④年度ごとに納付状況が示されますので、領収書の必要な年度の「領収書の発行」ボタンをクリックします。
⑤領収書発行の画面の指示に従ってください。

● 会費納入のお願い

2017年度迄の会費未納分を含めて会費請求書・郵便払込取扱票を同封しております。過年度分会費未納がある会員は、速やかにご入金ください。

納入は、上記のオンライン決済をご利用いただけます。また、従来の郵便振替口座をご利用いただくことも可能です。

領収書につきましては、上記のオンライン発行をご利用ください。

年会費等郵便振替口座　00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

また、銀行からのご入金を希望される場合は、
入金前に必ず、以下の**大学教育学会　学会業務取扱センター**までその旨ご連絡下さい。

＜「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先＞

大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0002　東京都豊島区巣鴨1丁目24-1　第2ユニオンビル4F
TEL:03－5981－9824　FAX:03－5981－9852
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。
納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。
また、学会誌への投稿、大会・課題研究集会での発表申込みは、申込時の当該年度分までの会費が納入済みであることが条件となります。

※第40回大会（筑波大学）の6月9日（土）、10日（日）は、会場に学会事務局の受付を設置し、未納分の会費納入、会誌バックナンバー・学会出版物の頒布予約等を行いますのでご利用ください。

● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身で変更をお願いいたします。ID（会員番号）・PWを紛失された方は、大学教育学会　学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者のメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年2～3回、大学教育学会メール通信（メールマガジン）を配信しております。

しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスjacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願いいたします。

● 学会関連資料のご寄贈のお願い

事務局ではアーカイブズの収集、保存にあたっております。

特に探求している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。

大会発表要旨集録等（1979,1981,1989,1990,1993,1998,2000,2001,2002,2003,2004 年）

課題研究集会要旨集（1981,1982,1985,1986,1987,1988,1989,1992,1993,1998,2001,2003, 2004,2005, 2008 年）

その他、一般教育学会時代の資料についてもご寄贈をお待ちしています。

アーカイブズのご利用については、事務局までご連絡ください。

● 2018年度課題研究集会について

2018年度課題研究集会は、12月1日（土）・2日（日）に長崎国際大学（〒859-3298長崎県佐世保市ハウステンボス町2825-7）にて開催されます。

● 2018年度（第14回）大学教育学会奨励賞の募集について

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。

受賞対象者は本学会個人会員です。2018年度（第14回）は、第37第1号から第40巻第2号までの過去4年間の学会誌に掲載された論文が対象となります。応募は自薦・他薦を問いません。

① **提出書類**　＜自薦＞論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由（研究の意義・成果など1,000字以内）／＜他薦＞論文、推薦理由（研究の意義・成果など1,000字以内）

② **募集締切**　2019年1月11日（金）必着

③ **送付先**　大学教育学会事務局

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

なお奨励賞についての詳細は、「一般社団法人大学教育学会表彰規程」第2章をご確認ください。（本学会ウェブサイト内掲載）

●「JACUEセレクション2019」の募集について

大学教育学会は、各大学の大学教育改革、効果的な大学教育実践を支援するために、優れた書籍を選定し、「JACUE セレクション」として広く紹介することにしています。

「JACUE セレクション 2019」の募集要項は、12 月上旬に公表する予定です。

これまでの JACUE セレクションについてはウェブサイトをご覧ください。

一般社団法人
大学教育学会

【学会事務局】
〒252-0231　神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204
Tel/ Fax: 042-707-8112
E-mail:jacue.office@gmail.com
URL:http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】
大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0002　東京都豊島区巣鴨1丁目24-1　第2ユニオンビル4F
TEL:03－5981－9824　　FAX:03－5981－9852
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp